

# 片峰新学長が描く 長崎大学の新しいビジョン

この秋、長崎大学の学長に就任した片峰茂氏。  
国立大学の法人化から4年半。  
次なるステージへ進むとすると、  
長崎大学はどんな未来をめざしているのか。  
片峰学長が描く新しいビジョンとその横顔に迫ります。



## CONTENTS

【特別インタビュー】 片峰新学長が描く 長崎大学の新しいビジョン	1
【We Love Circle】 表千家茶道部流生会	8
【古写真に見る近代ホテルの黎明期(3)】 箱根 富士屋ホテル	9
【いいたか放題】 長崎歴史文化博物館 館長 大堀 哲さん	10
【経済シリーズ】 経済・社会のグローバル化を 覗いてみよう ①世界を動かす中国経済	12
【贈る言葉】 若者たちへ 前長崎大学長 齋藤 寛	15
【長大ニュース】	18
【Report】 長大生のまちおこし 「荒れ地に花を咲かせま SHOW」	20
【インフォメーション】・【編集後記】	21

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌 CHOHO」号からと明記してください。学外の方は、事前に広報企画委員会までご連絡願います。



# 「法人化から4年半。 長崎大学が進むべき方向とは？」



**片峰** とにかく研究といつのはやっただとがある人でないとわからない楽しさがあります。今まで誰も知らなかったことを自分が初めて見つける喜びなど、その味を知ったらもう病み付きになります。たとえば30代の頃、私は夜11時くらいまで仕事をし、それから街に繰り出してお酒を飲むのですが、そこでもまた研究の話をするのです。帰宅して寝床に入ると、今度は天井に研究のアイデアが次々に出てくるわけです。そういうことが毎晩です。朝になると半分以上は忘れていますが、いくつかのアイデアを次の日から試してみます。すると、たまにうまくいくんですね。それがものすごく楽しい。そんなふうには30代前半くらいまでは研究者として非常にいい時代を過ごして、ちよとい気になっていました。しかし、その後アメリカで3年くらい過ごしたとき、鼻をへし折られましてね。アメリカにはすごい人材が世界中から集まっていますから、これはいい経験でした。そうして、最

に入っているのです。

## 教育・研究のレベルを上げ 長崎大学のブランド力を高める

**慎改** これから、長崎大学が進むべき方向とは？

**片峰** 少なくとも長崎大学は研究大学として残る必要があります。そうでなければ、世界に貢献できません。長崎大学は法人に移行してから、いろいろな可能性の芽が齋藤前学長のもので出てきています。おそらく次の5、6年で、長崎大学が研究指向の総合大学として生き残れるかどうかが決まると思っています。非常に大事な時期だと認識しています。とにかく、教育や研究の中身を高め、長崎大学のブランド力を上げることが大切です。そして、実際にいろんな成果を出して、発信していくこと。それからCOE(4)などに採択される研究を打ち出すことなど、やることはたくさんあります。

**慎改** 今、まさに過渡期にあり、これを乗り切らなければいけないことを、全ての教職員が意識すべきときなのですね。

**片峰** そうです。私は組織のためという言い方は好きではありません。実際にそれは、大学という組織を維持するとか守るためという感覚ではなく、学生や若手研究者のためなんです。いかに彼らを



**片峰** とにかく研究といつのはやっただとがある人でないとわからない楽しさがあります。今まで誰も知らなかったことを自分が初めて見つける喜びなど、その味を知ったらもう病み付きになります。たとえば30代の頃、私は夜11時くらいまで仕事をし、それから街に繰り出してお酒を飲むのですが、そこでもまた研究の話をするのです。帰宅して寝床に入ると、今度は天井に研究のアイデアが次々に出てくるわけです。そういうことが毎晩です。朝になると半分以上は忘れていますが、いくつかのアイデアを次の日から試してみます。すると、たまにうまくいくんですね。それがものすごく楽しい。そんなふうには30代前半くらいまでは研究者として非常にいい時代を過ごして、ちよとい気になっていました。しかし、その後アメリカで3年くらい過ごしたとき、鼻をへし折られましてね。アメリカにはすごい人材が世界中から集まっていますから、これはいい経験でした。そうして、最

終的に行き当たったのがプリオンの研究でした。その研究を進める中で、自分でも世界でそれなりのインパクトがある業績を出せるという自信がありましたね。

**慎改** とても充実した日々を送られてきたのです。その経験が、これからの長崎大学の舵取りにどのように反映されるのか、たいへん興味深いと思います。

**片峰** 自らアイデアを出して、それを現実化し出した結果が世界の誰も知らないものでひょうとしたら世界を変えるかもしれないという、この感じ。これはもう、大学など限られたところでしか経験できないことだと思えます。だからこそ、長崎大学の研究の環境をレベルアップさせていきたいですね。

## 人類のために何ができるかを 考えることが大学のスタンス

**慎改** 国立大学の法人化から4年半が

ハットにできるか。そして、いかにより良い教育や研究につながるかができるか、そういう意識で取り組むことが非常に大事です。それが結果的には組織のためにもなるのではないのでしょうか。そういう新しい意識に切り替えるためには、ときに制度を変えることが役に立つかもしれない。私は考えています。

**慎改** まずは、教職員の意識を変える。これから片峰大改革がはじまるのです。片峰 どのまでできるかはやってみないとわかりませんが、これをやらなければ、おそらく長崎大学は近い将来かなり苦しくなります。そのために意識を含めた改革が必要なのです。

## 長崎大学のこれからを示唆する 国際健康開発研究科の新しさ

**慎改** とここで、この春新しい大学院、国際健康開発研究科(5)が開設されましたが、片峰学長らがそのアイデアを出され、開設のために尽力されたこと聞いてあります。

**片峰** 私だけではなく、学内外に協力してくれる素晴らしいスタッフがいたから実現したのです。とくに、3年ほど前に私もが学内機関として立ち上げたCICORN(6)国際連携研究戦略本部(6)の力によるところが大きかったです。そして何より齋藤前学長の全面的な支援と賛同があつて実現したと思っています。そもそも、国際健康開発研究科の発想は、大学の法人化後、きちんと特色とインパクトのある大学であるべきだと思いついたから生まれました。これまでの日本の大学には、途上国の国際協力の現場で即戦力として活躍できる人材を育成する教

経ち、大学を取りまく社会情勢も大きく変わってきています。片峰学長が考える大学の在り方とは？

**片峰** 今、環境問題、エネルギー問題、食料問題など、世界的に混とんとしています。ある意味、人類や地球の危機にあることは事実だろうと私は思っています。その危機を乗り越えるために何をしなければいけないかを考えるそれが大学の役割で基本的なスタンスだと思っています。だから、世界中のいろんな大学から、今の状況を打破するための研究成果なり、思想なり、インパクトを与えるような新しい創造が出てこないといけません。当然、長崎大学もその役割を担わなければなりません。

**慎改** どんなふうに取り組むべきか、いかにして、

**片峰** 地球規模での課題にきちんと汗を流して貢献できる人材を育てるということ。世界や人類のために、大学という環境が機能すべきである、という時代

育コトは存在せず、我が国の顔の見える国際協力の進展が遅れる大きな要因となっていました。国際健康開発研究科ではさまざまな分野の教員により国際保健に関する幅広い知識を教授し、約8カ月間の長期にわたり途上国におけるインターンシップを実施します。これは他の大学にはあまり見られない新しさなのです。修了すれば公衆衛生学修士(MPH)の称号が授与されます。この研究科は大変評判が高く、2年目の来年度は、入学希望者が殺到すると予想しています。実は、私が温めている夢のひとつに、長崎大学の東京キャンパスをつくりたいというのがありますが、そのときは、まずこの研究科をそこに設けることになるだろうと思っています。

## 国際的な視野とレベルで 教育・研究を行い、世界に突出する

**慎改** 片峰学長は、いろんなところで大学のこれからについて話すと、世界に突出する、という言葉をよく使われています。今、今回の国際健康開発研究科も、その世界に突出するものをめざすわけですね。

**片峰** ええ、そうです。世界に突出するに、少しお話しすると、今、アメリカで住宅関連のファンド・サブプライムローンが破たんし、アフリカをはじめ世界中に影響が及んでいます。日本ではガソリンの高騰という形で、長崎県など離島を抱えるところでは漁業に大きな影響を及ぼすなどしています。要するに世界の動きが即、地域に影響する時代になつていて、これからの人材は世界で何が起つていて、その中で自分は何をすべきか

# 「大学が世界や人類のために 機能すべき時代です。」

6 CICORN 国際連携研究戦略本部  
CICORN (Center for International Collaborative Research) ODA や国連、さらには民間の資金による海外とくに途上国現地における国際協力・研究プロジェクトの企画、受託から実施までを担うための学長直轄機関。平成17年4月創設。(CHOHO 第15号で紹介)

5 国際健康開発研究科  
主に発展途上国における健康問題の解決に総合的に取り組み、国際的に活躍できる専門的人材として、公衆衛生学修士(MPH: Master of Public Health)の育成をめざす大学院。学際的なアプローチで知識を身に付け、JICA や NGO、国連などと連携した海外での長期インターンシップなどによる教育も実施される。

4 COE  
文部科学省が優れた大学の研究プロジェクトを選抜し、一定期間、重点的に援助する「21世紀 COE プログラム」のこと。COE Center of Excellence とは、卓越した研究拠点を意味する。

# 「これからは、世界に突出する 長崎大学をめざします。」



を判断できるような国際的センスがないとやっていけない時代です。ですから、長崎大学の教育・研究は常に国際的な視野とレベルでやらなければいけないし、そこから生まれてくる人材も国際性をきちんと身に付けていなければならぬと考えています。世界に突出する「は、そういう意味で使っているのです。その極めてわかりやすいモデルケースが、今現在、国際健康開発研究科であり、熱帯医学研究所であり、原爆後障害医療研究所施設である。今後、環境や工学の分野で突出する部分が増えてくれば、非常にうれしですね。

**慎改** すでに長崎大学は突出した部分をいくつも持ち、全国でも選ばれる大学であるといえますね。

**片峰** 重要なのは、そこを社会にきちんと認知していただくことです。そういう意味で、まだ長崎大学はブランド力が足りないと思っています。全体的に教育・研究のレベルを上げていかないとブランド力は

上がりません。そうして優秀でやる気のある学生を集めてはじめて、大学のレベルも上がっていくわけです。

## 地域に対してやるべきことは きちんとやり、大学の本分を通す

**慎改** 地元長崎との関わりについて、これまで官学の連携で進めてこられました。この点に関してどのような考えをお持ちですか？

**片峰** 長崎大学は長崎市に立地して、まず、県や市の支援は不可欠です。また長崎大学は、学生と教職員及びその家族合わせて約2万人を擁し、その多くが長崎市に居住するが、近隣の町から通勤しています。いろいろな意味で長崎市にとりて無視できない状況で、お互いが影響を及ぼしあう関係です。そのような中で、長崎大学が地域とどう関わっていくかですが、私はやるべきことはきちんとや

らなければならぬと思っています。たとえば、今、地方の医療過疎が叫ばれていますが、やはり長崎大学医学部が、長崎県の地域医療を支え維持する義務があると思っています。また、教育学部がきちんとしたレベルの教員を地元で輩出することも重要です。それぞれ社会の状況など難問を抱えています。大学の重要な役割だと認識しています。一方で、必ずやるではなく、できるだけやるというスタンスのものもあります。地域が要請していることに、長崎大学のマンパワーなり、キャパシティが無理なく受け入れることができれば、一緒にやりましょうというものです。中途半端なレベルで地域貢献と称してやっても、それは長続きしない効果も期待できないので、その点は見極めが必要で

**慎改** それはこれまでの地域との関わり方に、変化があるということですね。

**片峰** ええ。長崎大学は、世界に突出することをめざします。そのためには、非

常に高いレベルの教育の維持や研究成果を出していくと同時に、優秀な学生を育てなければいけません。それが大学の本分なのです。誤解を恐れずに言わせてもらうと、そこに割くべきエネルギーを使わずに、地域連携に走ってはいけないと考えています。少し突っ込んで話をしますが、地方分権がいわゆるようになって久しいですね。しかし現実には、なかなかうまく進まず、まだまだ地方には力がありませぬ。そんな中、地方で最初に突出しやすいのは、大学だと私は思っています。地方大学が突出するというのは、たとえば、全ての学問領域で東京大学と同じレベルをめざすのではなく、ある領域に関しては、日本では他の追随を許さない、世界の中でもちゃんと認められるものをいくつかつくるといことです。それがひいては地域にもいい影響を及ぼしていくのではないのでしょうか。そういうレベルでの地域貢献が、大学の本分ではないかと思っています。

んが、「長崎＝出島」というのはあくまでも江戸時代の話で、この街に住む人の心の糧にはなるかもしれないけど、その歴史に安住してはならないと思います。私は江戸時代の日本における長崎の位置付けを超えるものをめざしたい。つまり、「21世紀の世界における長崎」ということに価値観を置きたいということですね。

## 世界に突出する長崎大学、 志と覇気に満ちた若者が集う大学へ

**慎改** これから長崎大学の舵取りをするにあたって、新しいキャッチフレーズをお考えですか？

**片峰** 「世界に突出する長崎大学」「志と覇気に満ちた若者が集う大学」でいきたいと思っています。

**慎改** 高校生や若い研究者に対して長崎大学をPRするならば、どんなことをおっしゃいますか？

**片峰** 長崎大学は高いところをめざしていってほしい。この点は強調したい。そして、よりよい教育環境と、若い研究者が思う存分力を発揮できる環境を整備しますので、ぜひ来てくださいということになります。

**慎改** これから、長崎大学がよりよく変わり、すばらしい人材をさらに輩出していくことを期待しています。

**片峰** 多くの学生が自分の夢を実現させるために、長崎大学を選び、学び、そういう大学をめざします。

## 江戸期における長崎・出島の 歴史的価値に安住してはならない

**慎改** 江戸時代、長崎・出島は日本の学問の中心であり、長崎大学がまさに出島の流れをくんでいるということですが、

**片峰** 江戸時代の出島を中心とした歴史、これは長崎大学というより、長崎大学が立地している長崎市や県の財産です。長崎大学はその財産を活かしていく、あるいはその独自の歴史に対して貢献していくことが大事だと思います。また、出島の歴史は長崎大学ブランドを語るべき、ひとつの重要なキーワードになる可能性はあります。ただ、私が長崎に生まれ育ったからそう思うのかもしれない

# 「江戸時代の 長崎・出島の存在感、 それを超えるものを 創造していきたい。」

「長崎港俯瞰細密画（長崎歴史文化博物館蔵）  
文政年間（1818～1830）の長崎港の様子。オランダ国旗を掲げた扇形の島が出島で、対岸の屋敷が長崎奉行所西役所（現・県庁）。左側に新地（現在の新地中華街）や唐人屋敷が描かれている。

